

六甲山系東部におけるイカリヒメジンガサハムシの多産地

篠原 忠・篠原 弘

イカリヒメジンガサハムシ *Cassida sigillata* (Gorham) は、国内では本州、四国、九州、対馬に分布するハムシで、少ない種とされている(滝沢, 2014).

筆者らは2015年の間に兵庫県西宮市越水社家郷山で本種を227頭確認したので報告する. 本生息地は六甲山系東部に位置し、林床に本種のホストであるアキチョウジが群生する場所である(写真).



イカリヒメジンガサハムシとその生息環境.

採集記録: 1ex., 19. IV. 2015; 12exs., 29. IV. 2015; 40exs., 30. IV. 2015; 30exs., 5. V. 2015; 22exs., 14. V. 2015; 15exs., 2. VI. 2015; 13exs., 9. VI. 2015; 2exs., 12. VI. 2015; 5exs., 15. VI. 2015; 24exs., 28. VI. 2015; 2exs., 10. VII. 2015; 6exs., 23. VIII. 2015; 4exs., 29. VIII. 2015; 50exs., 13. IX. 2015; 1ex., 16. X. 2015.

成虫は4月中旬頃から見られ、5月上旬頃にかけて個体数が多くなるようである. その後一時的に個体数は少なくなるが、9月には新成虫が出現して再び多く見られるようになった.

○参考文献

滝沢春雄, 2014. 日本産ハムシ科生態覚書 (8). 神奈川虫報, (182): 37-46.

(Tadashi SHINOHARA
神戸大学大学院人間発達環境学研究所)
(Hiroshi SHINOHARA 兵庫県西宮市)

兵庫県におけるミカドアゲハの記録

広畑政巳

兵庫県におけるミカドアゲハの採集記録については広畑政巳・近藤伸一(2007)で報告してきたが、近年本種の撮影記録と採集記録が2例あるのでその概要を報告する.

兵庫県においては1958年に登日邦明氏によって淡路市(旧津名郡津名町)佐野で1♂が得られたのが初記録である. その6年後の1964年に同じ淡路市の志筑明神で2頭が奥野修久によって採集された. 県下ではこれまでこの2例の採集記録しかなく、本種は兵庫県においては迷蝶として取り扱われる状態であった.

ところが、最後の採集記録から44年後の2008年5月23日に清水哲哉氏がたつの市新宮町光都1丁目の播磨科学公園都市にある大型放射光施設「スプリング8」の敷地内でシロツメクサと思われる白い花に求蜜にきた本種の撮影に成功された. このことについては2008年6月25日の朝日新聞朝刊の28ページにカラー写真入りで紹介されている. この記録が兵庫県3例目の記録である.

筆者は同年本種の植樹であるオガタマノキで幼虫を確認するため同地を訪れた. 近くの栗ノ木谷公園には植樹されたオガタマノキはあったが幼虫を確認することはできなかった.

その後6年間は記録が途絶えていたが、2014年6月8日に赤穂市上飯屋の大石神社境内にあるオガタマノキで筆者が本種の2幼虫を採集した. 自宅のオガタマノキで飼育をした結果一頭は2014年7月20日に1♂が羽化した. もう一頭は蛹で越冬して2015年5月23日に1♂が羽化している. 聞くところによれば赤穂市では2011年頃から採集されているようである.

難波通孝(2009)によると、本種は山口県に侵入したのは1950年代のようで、その後分布を東に拡大し、1984年に広島県で記録され、それから15年後の1999年には岡山県福山市で確認され、岡山県南部の各地でオガタマノキやタイサンボクを植樹として広い範囲で発生している.

岡山県では主たる植樹は安定して新芽が出るオガタマノキで、タイサンボクは多くの場合発生の途中に利用しているようである. 兵庫県でもタイサンボクは庭木として多く植えられているがオガタマノキは神社など限られたところにしか見られない. 赤穂から姫路にかけての瀬戸内側の地域では少ないながら見られるようであるがその数は限られている.

赤穂市では本種がすでに土着していると思われるが、その後分布をどのように拡大しているのか興味があるところである. 本種についての情報をご教示いただいた難